

コミュニティとNPO

先日、総会後に高崎経済大学の櫻井氏による「これからのコミュニティ経営」についての講演がありました。日頃から漠然と地域社会におけるNPOの役割について感じていた疑問が解けた感じがしました。というのも、わたしの住む石巻地域も市町村合併がすすみ、自治体の枠組みも1市9町から2市1町に変わるなかで、地域住民だけが取り残されている状況が各地で見受けられ、NPO支援の活動をしている「いしのまきNPOセンター」にとって、今回の市町村合併にどう向き合えばよいか課題としてあったからです。

今年度の事業で、新石巻市において合併した旧6町へ出向き、NPOの理解促進を図る講座を計画しています。先日、状況視察を兼ねて各総合支所を訪問しましたが、まだ地域では地縁型組織が主な活動の場であり、NPOのような志縁型組織はほとんど見受けられないというお話しでした。そんな地縁型組織も行政が下支えをしているのが現状で、将来的に維持できるか不安を感じているようでした。そのなかにNPO論を展開していても空振りに終わるのは目に見えており、コミュニティ再生に向けた地域とNPOの連携を視野に入れた取り組みの方がより重要な課題になってくると思います。

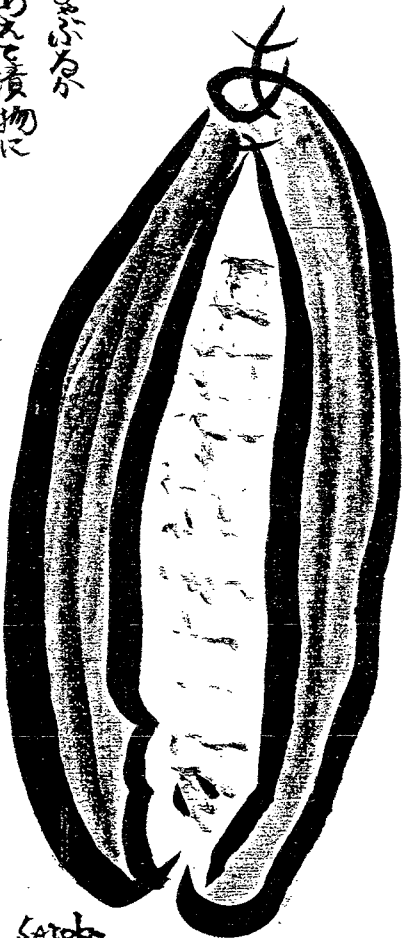
地域に活動拠点をおく中間支援センターとして、地縁型組織と自治体の間に立ち、共に地域再生を考えていくことが、これから求められる役割ではないでしょうか。

せんだい・みやぎNPOセンター理事 木村 正樹

内容

総会記念講演報告、協働調査、総会報告
センターサロン、ローカルマニフェスト
らくだのブックブック、BOOK、事務局活動報告、など

種はみんなの種
みんなの種はみんなの種
みんなの種はみんなの種



Sarob

美はひろみ
みんな
揚げて

イラスト 田中 聡子さん

第7回 通常総会・記念セミナー 報告

**これからのコミュニティ経営
一町内会・NPO・コミュニティビジネス**

せんだい・みやぎNPOセンター2004年度の総会の記念セミナーは、高崎経済大学地域政策学部地域づくり学科専任講師の櫻井常矢氏を講師に迎え、コミュニティ経営についてお話を伺いました。仙台のような都市圏でも、団地の高齢化、町内会役員の担い手不足、孤立化した都市生活の矛盾など様々な問題が浮上しています。本講演は、今後の市民活動、社会教育、コミュニティ政策を考える上でとても示唆に富む貴重な内容となりました。

1. なぜ今、コミュニティなのか

日本では現在、国、地方自治体行政、地域諸団体、住民等、それぞれのコミュニティへの関心が高まっています。それは、なぜでしょうか。一つには、少子高齢化、地域犯罪、災害、自殺、ニート、そして虐待など地域課題の多様化があります。もう一つは、その中で「地方分権」が唱えられていることにあります。しかし、それは地域の自己責任（自分たちの地域のことは自分たちで）を意味するため、それにより自治体間・地域間の格差が現れつつあることも事実です。

現在、市町村合併が全国で進んでいます。これは、究極の行財政改革です。合併とは、地域性や地域課題の異なるいくつかのまちをすべて包み込むことを意味します。従って合併により地域課題が複雑化するにもかかわらず、職員数は減り、行政の対応はますます難しくなっています。すなわち自治体が広域化するということが、問題解決の主体として逆に狭域コミュニティの重要性を高めることにつながります。

2. 自立したコミュニティへの道のり

しかし、コミュニティの自立は、そう簡単ではありません。縦割り、上意下達、補助金などこれまで長年培ってきた行政との関係によって、地域は補助金依存、指示待ち、役割重複などの体質となり、機能不全に陥っているところさえあります。その中でいきなり「自立してください」、「補助金はもう出しません」といっても、住民活動は停滞

するだけです。行政には、コミュニティの自立を促す段階的戦略が求められます。

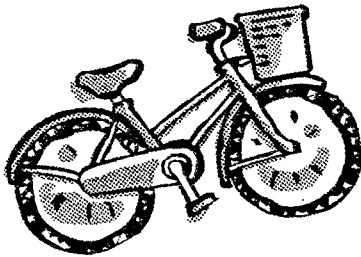
ここで地縁型コミュニティと志縁型コミュニティについて考えてみます。地縁型コミュニティ（町内会・行政区等）は、入りたいといわなくても、入らざるをえない地理的關係に基づくものです。それに対し志縁型コミュニティ（NPO・市民活動）は、明確な問題意識、専門的・継続的取り組み、主体的参加によります。今までこの二つは対立的・競争的關係として捉えられてきました。しかし、実は現実においては相互の連携あるいは重なりが現れています。次に、その具体的な事例を見ていきます。

3. 各地の取り組み

福島県飯舘村は人口6千人くらいの村ですが、その20の行政区を支えるため、1989年の「ふるさと創生一億円」を活用し基金を作り継続的に財政支援を行ってきました。一行政区あたり、10年間で1000万円の財政支援です。興味深いのは、この補助金の支出の判断を行政ではなく、各行政区が地区別計画を出し、それを各区長20名で構成する協議会での相互評価によってなされることにしたことです。互いの計画・事業評価は、自らの事業を見つめなおす意味で高い学習効果をもたらしました。

一方、コミュニティ・集落のNPO法人化という点で興味深いのは、新潟県（旧）安塚町細野集落（現：上越市安塚区）です。細野集落は、現在世帯数25戸であり過疎と高齢化の典型であります。彼らは1979年に集落の将来を考える「あじさいクラブ」を始め、そこから1989年に「みどりのほその

春の祭典」という都市との交流事業を始めました。笹団子や山菜のおこわなどの手料理をだし大変好評をいただきました。この経験をもとに「六夜山荘」、「かあちゃんの家」、「工房ほその村」の三つの施設を行政の協力を得て設立し、年間3000万ほどの収入を上げています。経理上の問題等から法人を取ろうという話になりました。その際、今の活動ができるのは地域の先人やすべての住民たちによる協力のおかげであると考え、地域の福祉や教育に収益還元を図る非営利のNPO法人として動き出すことにしました。



岩手県北上市では、2006年に16の地区公民館をコミュニティセンターに移行させ、公民館区を単位とした自治振興協議会を指定管理者として運営することとなっています。その施設職員である地域づくりマネージャーの研修は、行政ではなくいわてNPO-NETサポートという中間支援組織によって行われています。コミュニティの自立と経営にとって、拠点施設と配置される人材は非常に重要です。自治組織と拠点施設の機能を自治体経営の柱にすえ、特にその人材養成をNPOとの協働で進める北上市の動きは示唆に富むものと言えます。

4. コミュニティの自立と経営をめぐる課題

—NPOへの期待—

最後に、NPOなどの組織がどのようにコミュニティと関わっていけるのかという点を整理させていただきます。

行政としてコミュニティとどのように向き合っていくのかは、最初の大きなテーマです。しかし、さらに行政関与のその先をどのように描

くかも課題となります。自治体職員は、事業化まではもっていけるのですが、事業体化するまではなかなかできません。そこで事業のために伴走してくれる職員やNPO（両者の連続性）がいてくれたら、コミュニティは大きな可能性を持つと思います。

もう一方では、「何のためのコミュニティ経営なのか」という問題意識を住民の間で掘り下げる必要があります。行政も、住民自治組織を作るというならば、なぜそれを作る必要があるのかを考え、それを明示しなければなりません。地域の将来像の提示と共有が絶対条件です。そのためには、行政とコミュニティ相互の率直な振り返りによる課題認識が必要であり、それを促す外部の人が必要です。

コミュニティのためには、先ほど述べた人材と同時にやはり拠点づくりが重要です。今、公民館の危機といわれていますが、そうではなく公民館をコミュニティの拠点として再登場させることが必要なのです。公民館の利点の一つは世代間の交流機能にあります。地域づくりがうまく行っているところに共通することのひとつには、世代間の信頼関係が優れていることが指摘できます。

現在、コミュニティをどう支援したらいいのかを考える中で、伝統的な行政的手法への問いなおしが起こっているのも事実です。コミュニティの自立と経営の前提には、独自の事業創造や組織づくりのアイデアなどその多様性を認めていく必要があります。しかし、従来からコミュニティを支えてきた行政は、画一・平等・公平分配がコミュニティとのお付き合いの基本であるため、こうした時代の要請に応えにくい面を持ちます。行政には、それが可能となるような新たなコミュニティ政策が必要ですし、また地域の外にある資源や人をつなぐ「中間支援」という仕組みがコミュニティにとってますます必要となってきていると感じています。（安達智史）

↓ 櫻井さん、加藤理事も執筆しています。

■関連するおすすめ図書

『コミュニティ再生と地方自治体再編』

監修／(財)東北開発研究センター

編著／山田晴義、新川達郎

発行／株式会社 ぎょうせい

定価／2000円 せんだい・みやぎNPO

センターで、好評販売中！

報告●第2回「都道府県、主要市、区における NPOとの協働環境に関する調査」

今夏、I I H O E〔人と組織と地球のための国際研究所〕が中心となり、全国のNPO中間支援センターとともに全国主要都市における協働環境の調査がありました。

当センターでは多賀城市役所の研修生が東北地方18自治体の調査を担当しました。

□調査の目的

協働を促進しようという機運の高まりを受け、協働を生み育てる環境が行政にどれだけ、どのように整っているかということをも21の設問から明らかにするものです。

□調査の対象

調査は各県の県庁のほか、人口10万人以上の主要都市を含め全国で197の自治体が対象となりますが、当センターが担当したのは東北地方18の自治体です。

□調査の内容・採点

昨年度実施した第1回調査結果との比較を容易にするため、同様の設問で実施しました。なお、評点に際しては、それぞれに付する点数のばらつきを防ぐため、点数に応じた指標をあらかじめ設定しました。

□調査を担当した行政職員の視点から

この調査を通じ、「協働」と位置づけられる

様々な取り組みが、各地で展開されていることが明らかになりました。特に、条例や指針、NPOに対する助成制度等といったハード面については比較的多くの自治体で整備されている一方で、協働事業実施決定プロセスへの市民の参画や事業評価、協働事業推進に関する行政内部の取り組み、また、これらすべてに関する情報公開については、まだ十分とは言えない状況でした。

今、どこの自治体でも「協働」という新たな視点による効率的な行政運営を模索しているところですが、こうした創造的な業務はマニュアル、通達行政に長年馴染んだ我々行政職員にとって、ある種苦手な分野なのかも知れません。

しかし、大きな期待と可能性を秘めている「協働」をよりよいものとするためには、行政職員がその本質を正しく理解することはもとより、市民に対し粘り強く情報を発信し、対話を重ねるといった地道な取り組みを要するものだと改めて認識をしました。

(吉田学)

■当センターにて好評発売中！■

協働のための企業・自治体の視点からのNPO評価報告書「企業・行政とNPOのより深い協働を目指して」2004年1月発行 630円(税込)

第7回 通常総会 報告

去る九月三日(土)午後一時十五分より市民活動サポートセンターセミナーホールにて、第七回通常総会を行いました。議長の大滝精一代表理事より、総会成立の確認(正会員一〇名中、出席十六名、委任状五十一名、合計六十七名。定人数…過半数)の後、第一号議案…二〇〇四年度の事業報告および決算の承認、第二号議案…二〇〇五年度の事業計画および予算の審議・決定、第三号議案…定款の変更の承認をいただきました。

ご出席の方からは、NPOの評価システムに関する勉強会の必要性、二〇〇七年問題と注目されている団塊の世代を視野に入れ、サポート資源提供システムにおける人材バンク機能の充実等へご意見やご要望をいただきました。地域に根ざした中間支援組織として果たすべき役割は後を絶ちません。会員の皆さんとも引き続き、議論や検討の機会を持ちながら、具体的な計画の検討を進めて参りますので、ご協力の程よろしく願います。

(青木ユカリ)

報告 センターサロン

■7月28日

NPOスタッフのための「すぐ使える会議のコツ」

7月のセンターサロンは、「NPOスタッフのための「すぐ使える会議のコツ」」を開催。会議で悩んでいること、学びたいことをポストイットに記載し、それに対して、19名の参加者から意見を発表していくスタイルで実施しました。団体が抱える会議での悩みを知り、お互いにアドバイスすることで、サロン内で改善策を見出せました。ここでは、事例を少し紹介します。

Q1「話がそれる、結論がでない」、A1「会議の前にゴールを確認することが重要です」。Q2「発言する人が偏っている」A2「複数のスタッフで話し合ってから発言する方法もありますよ」。

Q3「マンネリ化している」、A3「時間、場所、グッズで一工夫するなど変化をつけてみては」…。

これ以外にも、団体が持っているお役立ち情報が大放しされ、いい雰囲気での意見交換や情報提供の場となりました。参考資料のアイデアを提供したり、会議運営の上でのグッズの紹介もしたり、今回もちよっとした「スパイス」をつけ加えたサロンになりました。他団体の人と、会議運営を一緒に考えたことで、参加団体独自のノウハウを獲得でき、NPOで大切な「持ち寄りの文化」を体感できたサロンでした。(遠藤孝志)

■8月31日 センターサロン

仙台のインキュベート施設を考える

8月のセンターサロンは、仙台のインキュベート施設を考える「こんなインキュベートブースを利用したい!」というテーマで開催しました。仙台市内の4公共施設(市民活動サポートセンター、みやぎNPOプラザ、エル・ソーラ仙台、市産業振興事業団)の担当者とその利用者が一堂に会し、主に、1. ブースの概要、2. 各施設の支援メニュー、3. 利用者のメリットと課題、4. よりよいブース運営のために施設、利用者が実施したほうが良いこと、の4点について発表、情報交換をしました。利用している団体には、ブース以外の施設機能をとことん活用して欲しいという施設担当者からの意見や、ブースを出た後もフォローが必要ではないか、といった継続的な支援を希望する利用者からの意見が印象的でした。また、民間のブースの可能性や、団体同士が連携して場を借りてはどうかという、新しいブースの形も提案されました。

今回の一番の成果は、情報交換の機会を提供できたことです。また、各施設が実施している支援メニューや今後の課題などを共有したことで、それぞれが、よりよいインキュベートブースの運営や活用の仕方を考えるヒントが得られました。(真壁さおり)

報告 ● ローカル・マニフェスト

推進ネットワーク東北

今年選挙の年ですね。4月の衆院補選、7月の仙台市長選、9月の衆院選、そして11月の宮城県知事選と続きます。そんな中、今年2月には、北川正恭氏(早稲田大学大学院教授、元三重県知事)が来仙して、ローカル・マニフェスト推進ネットワーク東北を結成しました。マニフェスト(政権公約)は、従来の支持者に対する利益誘導型の公約ではなく、有権者に対する予算と期限付の誓約文書で、小選挙区制度とあいまって日本の政治風土を改革する有効な手法です。当センターは、マニフェスト運動を民主主義的な政党と選挙の重要なツールと考え、大滝代表理事と共に、発起人になり、その後の運動に協力しています。

運動の成果はどうでしょうか。7月の市長選では、各候補者が少なくとも真剣にマニフェストを作成し有権者に問い掛けました。衆院選はご存知の通り、小泉劇場と言われましたが、一方で6割を超える有権者がマニフェストを重視すると答えています。市長選で当選した新市長のマニフェストは、今後4年間、くりかえし検証されるでしょうし、衆院選に大勝利した自民党のマニフェストも徹底的に検証され続けるでしょう。選挙のときだけ言葉の大盤振る舞いをして、当選すれば記憶にない、そんな時代が終わる予感、マニフェストが選挙に取り入れられたからです。

もちろんその結果が、我が意を得たり、となつたかならないか、それは各人の志に関わることでですからなんとも言えませんが、私たちNPOセクターは、マニフェストを手がかりに長期的視点から政策を評価し、独自の政策提案を続ける力をしっかりと持たなければなりません。皆さんも、ぜひ11月の宮城県知事選にもご注目を!!

(加藤哲夫)

BENYのはみ出しエッセイ ◆らくだのブック ◆ vol.17

「みんな病」にご用心。

常務理事・事務局長 紅邑 晶子

「まちづくりは、みんなでやろうとすると失敗します。みんなで出来るというのは、幻想です。こういう状況をみんな病といいます。」8月に上越市で行なわれたNPOフォーラムの分科会での品川区商店街連合会の綱島信一さんのお話。この発言には、会場からちょっとしたよめきが起こりました。市民参加型の市民活動やまちづくり活動では、あたりまえのように語られている「民主的に」という考え方。みんなで意見を出し合い、時間をかけて議論して、みんなで決定し、実行する。それが、上意下達で決定する企業と違うNPOいいところだといわれます。でも、そうなのかなあ…と最近思っていたところでの、この分科会でした。

「みんなでやらない街づくり」という発想は、まさにコロブスの卵のよう。綱島さんの言葉には、「まちづくり」は形だけの市民参

加スタイルではない、本当の意味の自発的な人々、やりたい人たち、本気の人たちでやらなければ成功しないというメッセージがあとを思いました。また、「やらされているものは、続かない」というお話にも、思いあたる状況が浮かんできました。確かに、やらされている感のあることは、楽しくありません。逆に、自分から進んでやりたい、ボランティアなことはどんなに苦しくても、いろいろ工夫してやり遂げようと思います。

わたしは、「みんな病」という言葉の向こうに、NPOにとっての命ともいえる「自発性」という言葉を思い浮かべました。「みんなで考えると、各自の力がなくなる」という話も、納得した一言です。自分の意志で決めて自発的に行動する人の思いを阻むこの病氣。組織の安定期にかけやすい病氣かもしれません。

BOOK

旭山動物園園長が語る

命のメッセージ

小菅正夫 語り 竹書房 発行

1300円(税込)

傾きかけた動物園の建て直しに成功し、全国から熱い視線を浴びている北海道の旭山動物園を知っていますか？どうして人気が回復したのか。そこには動物園の園長小菅正夫さんの確固とした信念がありました。常々、何かを成し遂げるひとの言動は、明確で伝わりやすい、と思っていました。

「何事も自分に置き換えて学ぶ力」には目を見張るものがあります。カバのお父さんは、子どもが口を大きく開ける訓練の過程で、血だらけになつてその練習台になるそうです。自分は子どもにどう接したらいいか、カバのお父さんから学べることもあるか常に考えます。

「人間だけを見たら、いつしか人間さえもわからなくなる。」小菅さんはそう警鐘を鳴らします。何かひとつのことだけを見ていたら、そのことを取り巻く全体像が見えなくなる。本質が見えなくなる。そう置き換えてみる事ができるのではないのでしょうか。

本書は、経営術や組織マネジメント術のノウハウ本ではありません。けれど、何か問題解決の糸口を探している人や、親子関係に悩んでいる人はぜひ手にとっていただきたい一冊です。

(真壁とおり)

ご苦労様でした！●多賀城市役所職員3名の研修が終了

研修中はせんだい・みやぎNPO センタースタッフの導入研修をはじめ、協働環境調査、NPO 等による座談会、NPO 立ち上げ講座、貢献ファンド公開審査会など同センターならではの貴重な場面を体験させていただきながら同センターに対するスタッフの皆さんの深い思い入れを感じました。そのような中、随所で自分の意識・レベルの低さを再認識させられました。この体験を今後、本市の「協働によるまちづくり」の環境整備に向けて、少しでも活かしていけたらと思います。何かとありがとうございました（鈴木典男）

サポセンがもつ、人を育てる、情報を収集し提供する、そして団体のネットワーク化を図る機能は、広い意味でまちづくりに特化した社会教育事業であると思います。こうした事業では、実務に携わる現場スタッフの人間性、知識力、行動力、コミュニケーション能力が重要であることを学ばせていただきました。いつも利用者の立場で対応するサポセンスタッフ。些細なことでも情報を共有し、課題解決を図る意欲的な姿勢は、市民活動を行う人々にとって信頼に値するものであり、こうした日常的な関わりが市民活動を支えるということだと思えます。（櫻井道子）

「市民との協働によるまちづくり」これが新たな行政運営のキーワードとなっています。よく耳にする言葉でもあり感覚的には理解はしているものの、具体的に何をどのように進めたらよいのか？そんな疑問を抱きながら腰にタオルをぶら下げ、毎日大町の事務所へ通いました。34歳夏のことです。我々行政職員が市民活動や協働を語る際、はじめに市民側の自立を求めがちです。特に協働とは、「自立した両者が対等な関係のもと、それぞれに掲げるミッションを達成するために補完関係を保ちながら取り組むこと」だとするならば、行政側の自立とは何なのか？ということに気づいてしまいました。しかし、この答えが出るのは35歳の秋になりそうです。（吉田学）

期待しています！●インターン紹介

杉本隼人さん 出身 宮城県仙台市

市民社会創造ファンドのインターンシッププログラムで、来年の6月までお世話になることになりました。宮城大学大学院の杉本隼人です。大学院ではまちづくりを専攻しています。最近の趣味・特技は、イギリスでも大ブームと巷で噂のパズル「数独」です。パズルで頭をやわらかくほぐし、これまで学んできた事をいかしながら、よりよいまちづくりという目標に向かって頑張りますのでよろしく願います。

仙台市市民活動サポートセンターの建物は、築42年の民間施設です。近年雨漏りやひび割れ等が増加するなど、老朽化が顕著となり、安全面の配慮を訴えてきました。仙台市市民公益活動促進委員会からも、宮城県沖地震に備える必要から、早期に移転するよう答申を受け、仙台市が移転方針を決定しました。

移転予定先は、青葉区一番町の日専連ビルです（2006年9月予定）。現在、コンセプトや部屋割りなど、新・サポートセンターに関する提案書を作成しています。来年1月には、新施設の整備概要が決定する予定です。どのような施設になるのか、乞うご期待！

（遠藤孝志）

★ 決定 ★
仙台市市民活動
サポートセンターが、
来年9月に移転！

活動報告

事務局活動報告 (6/22~9/3)

■事務局/自主事業関連

- ・ サポート資源提供システム「運営委員会」「物品提供内覧会(地球計画研究所、東京海上日動火災、ぐりんびいす)」(6/22・7/6・8/13・8/17)
- ・ せんだいCARES「説明会」「キャプテン会議」「実行委員会」(6/22・7/5・6・8/11・18・25)
- ・ センター会議(6/29・7/27・8/31)
- ・ センダードサロン「4億4千万円のゆくえ」「NPOスタッフのためのすぐ使える会議のコツ」「仙台のインキュベート施設を考える」(6/24・7/28・8/31)
- ・ 仙台市市民活動サポートセンター全体ミーティング(7/7・15・8/8・19)
- ・ 大町全体ミーティング(7/11・8/3)
- ・ 経営会議(7/14・8/11)
- ・ ろうきんファンド審査会(7/22・8/5)
- ・ 理事会(第74回:7/20 第75回:8/22)
- ・ スタッフ面談(7/4・7/5)
- ・ 監査(8/3・8/5 加藤・遊佐)
- ・ 目標管理会議(7/27・8/24)
- ・ 第7回通常総会・記念セミナー(9/3)

■NPO/企業関連

- ・ 地域づくりインストラクター養成講座/主催(特)いわてNPO-NETサポート(6/25・26・7/2・30 加藤)
- ・ 募金フォーラム2005/主催:(社福)中央共同募金会(6/29・30 紅邑)
- ・ 青葉区まちづくり実践大学実践のための講座(6/30 紅邑)
- ・ 東北公益文科大学大学院CB起業論(7/9・23・8/6・13 加藤)
- ・ (特)グループゆう職員研修(7/12 加藤)
- ・ ローカルマニフェスト討論会(7/15 加藤)
- ・ 「協働」のいろは/主催:徳島市市民活力開発センター(7/16 加藤)
- ・ 育児介護休業資金の普及推進に向けてNPOモニター座談会(7/21 紅邑・青木)
- ・ ボランティア・NPO・企業の市民協働を考えるフォーラム/主催:沖縄地区勤労者マルチライフ支援事業事務局(7/21 高田)
- ・ 協働のまちづくり学習会/主催:(特)子育てネットワークバレルボンさん(7/24 加藤)
- ・ 企業のCSR研修会「企業に求められるCSR~NPOから見た企業の社会貢献とは」/主催:(社)日本損害保険協会東北支部(7/26 紅邑)
- ・ (財)東北開発研究センターコミュニティ再生研究会委員(7/26・8/23 加藤)
- ・ NPOブラッシュアップセミナー「組織を正しく知ってもらう~情報発信のあり方」/主催:(特)日本NPOセンター(8/5・6 紅邑)
- ・ (特)しょうがい福祉ネット仙台理事マネジメント研修(8/12 加藤)
- ・ NPO全国フォーラム北陸信越会議(8/20・21 加藤)
- ・ (特)多賀城市民スポーツクラブ役員及び事務局職員研修(9/1 加藤)

■自治体関連

- ・ 地域福祉活動計画策定に係る意見交換会/主催:(社福)仙台市社会福祉協議会(6/22・7/5・20・8/3 遠藤孝)
 - ・ 仙台市市民活動サポートセンター/「NPOいろは塾」「ボランティア大相談会」「NPOの活動のはじめ方」「活動プランづくり」「NPOマネジメント講座」「利用者意見交換会」(6/23・7/23・26・8/2・9・25・29・30)
 - ・ 徳島市協働の推進に関する研修(6/27・28・7/14・15・8/29 加藤)
 - ・ 柴田町まちづくり委員会学習会(6/28・8/8 紅邑・眞壁)
 - ・ 「社々かんきょうレスキュー隊」出動!/主催:仙台市杜の都の市民環境教育・学習推進会議委員会(6/29・9/1 遠藤智)
 - ・ 市町村職員等NPOセミナー「NPOとの協働の本質を知る」/主催:水沢地方振興局(6/30・7/21 加藤)
 - ・ 青葉区まちづくり実践大学「予算書づくりと活動資金確保」/主催:青葉区まちづくり実践大学運営委員会(6/30 紅邑)
 - ・ 市民センター職員「コーディネーター&ファシリテーター入門研修」/(財)仙台ひと・まち交流財団(7/5・12 遠藤智)
 - ・ 「市民活動を進めるワスリート会議」「市民活動を進めるワーキング会議」/主催:多賀城市(7/6・8/10 加藤)
 - ・ 仙台市社会教育委員の会議(7/9 紅邑)
 - ・ 「市民との協働によるポイ捨て防止活動とまちづくり」/主催:福島市(7/13 紅邑)
 - ・ NPOに関する基礎講座/主催:東松島市ひとまち交流館(7/14・21 青木・遠藤孝)
 - ・ アレマ隊出前講座/主催:仙台市(7/15・19 紅邑・遠藤孝・本田)
 - ・ 市民トラストの森講座/主催:仙台市(7/17・8/28 青木・佐藤)
 - ・ JCAFÉ理事会(7/17 加藤)
 - ・ コミュニティビジネス起業家セミナー「入門編」/(財)仙台市産業振興事業団(7/19・26 加藤・遠藤)
 - ・ 協働相談/共催:仙台市(7/20 紅邑)
 - ・ 仙台市市民公益活動促進委員会(7/21 紅邑)
 - ・ 宮城県民間非営利活動促進委員会(7/26 加藤)
 - ・ 仙台市健康福祉局指定管理者選定委員会(7/25・8/4 紅邑)
 - ・ 東北EPO整備運営検討会/主催:環境省(7/27 加藤)
 - ・ 全国地球温暖化防止活動推進センター職員研修/主催:(財)日本環境協会(7/29 加藤)
 - ・ キャリア教育プログラム第1回有識者会議(8/1 紅邑)
 - ・ (財)ふくしま自治研修センターステップ2研修(8/26 加藤)
 - ・ 公開講座「新しい地域のちから~NPOと行政との協働」/主催:丸亀市(8/30 加藤)
 - ・ 「団塊の世代」を対象とした新市場開拓に関する調査第1回委員会(9/2 紅邑)
- 相談、ヒアリング関連
- ・ 経営相談(6/23・7/25・8/25 加藤)

サポート・ご協力 ありがとうございます

●平成17年度会員 (敬称略・順不同、2005年6月22日～9月3日)

杉本隼人 八木健 鈴木典男 (特)ミヤギユースセンター

(継続・正会員・個人)

江口徹治 愛知絢子 伊勢武彦 横須賀和江 鎌田さゆり 紅呂晶子 荒井勝子 高橋英子 高橋幸夫
三好彰 山岡義典 山田晴義 芝原浩美 沼倉雅枝 新川達郎 川崎あや 川村志厚 浅見紀夫 相澤耀司
大滝精一 谷川俊太郎 池田一義 中村祥子 中津涼子 田代久美 渡辺祥子 渡辺博之 渡邊兼光
藤原範典 内海裕一 日向則子 白川由利枝 八木充幸 北尚登 木幡勝幸 遊佐さゆり 鈴木格
黒澤学 出雲幸五郎 片倉玄 長谷川公一

(継続・正会員・団体)

松山風土研究会 (特)みやぎ身体障害者サポートクラブ 角田市アジアの農民と手をつなぐ会
人と組織と地球のための国際研究所 日本労働組合総連合会宮城県連合会 せんだい杜の子ども劇場21
子ども虐待防止ネットワーク・みやぎ (特)やまがた育児サークルランド (特)あかねグループ
(特)市民フォーラム21・NPOセンター (特)いしのまきNPOセンター (特)住民互助福祉団体ささえ愛
(特)あぐりねっと21 (特)ソキウスせんだい (特)でんでん宮城いきいきネットワーク
(特)ハーモニーハウス (特)ほっとあい (特)みやぎセキユニティNPO
(特)ゆうあんどあい (特)起業支援ネット (特)茨城NPOセンター・コモンズ (特)宮城県断酒会
(特)杜の伝言板ゆるる (特)麦の会 AKK仙台 (特)東北マンション管理組合連合会 CILたすけっと
MIYAGI子どもネットワーク くりこま高原自然学校 青森アップル会 東北HIVコミュニケーションズ
ハリウコミュニケーションズ(株) (株)東日本放送 仙台都市総合研究機構

(継続・準会員・個人)

葛西淳子 高橋和恵 高鷹厚 早坂毅 伊藤寿朗 岡崎トミ子 沖永哲哉 宮野学 熊谷龍一 広岡立美
今田忠 佐藤和夫 坂下康子 山口宏 市川力 枝松芳枝 小浜耕治 松尾敏行 上田由美子 上野裕子
世古一穂 浅野ゆうこ 早坂恵美 大泉太由子 瀧澤陽子 中野勇也 津志田達雄 田中聡子 渡嘉敷頼子
藤田佐和子 木須八重子 柳沼芳美 有谷昭男 鈴木素雄 鈴木明英 齊藤衣代 槇ひさ恵

(継続・準会員・団体)

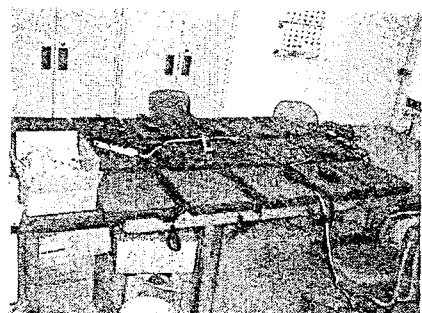
(社)日本損害保険協会東北支部 (特)WACまごころサービスみやぎ (社)仙台青年会議所
(特)子育てネットワークバルボンさん (社福)仙台的のちの電話 (特)グループゆう
(特)シャロームの会 (特)塩釜市体育協会 (特)生活リハビリクラブきらら (特)友愛さくら
(特)仙台インターネット推進研究会 (特)都市デザインワークス NPO協働体FJI クリーンアップ蒲生
ふくしまNPOネットワークセンター 宮城県麗人会 ふくしま地域づくりの会 心の図書室 日本たばこ産業
片平たても応援団 野外ぐるりん友の会 仙台ダルク(有)平野印刷所

●企業・団体協力 (五十音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて) 富士ゼロックス(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

ありがとうございました！
 (株)NTTドコモ東北さんより、中古PCT 8台

この度、せんだい・みやぎNPOセンターでは、
 (株)NTTドコモ東北さんより中古PCT 8台を寄贈し
 いただきました。早速、せんだい・みやぎNPO
 センターの業務や仙台市市民活動サポートセンター
 での業務で活用していきたいと思っております。会員の皆
 さんにお知らせするとともに、(株)NTTドコモ東北
 さんに感謝申し上げます。



新規・継続会員のお名前、御礼メッセージは、9ページに掲載しています。

◆10月のセダードサロン

NPOのための指定管理者情報交換会

日程：10/17

時間：19：00～20：45

会場：仙台市市民活サポートセンター

参加費：500円

定員：30名

対象：現在指定管理者のNPO

今後指定管理者になることを検討中の
NPO

担当：青木、渡邊、遠藤（智）、小松

募集・案内

◆書籍販売 好評発売中！

「NPOが社会を変えられない
5つの理由」

こんな事にお心あたりのある方
にお勧めです！

- ・行政とのつきあい方が苦手
- ・調べるのが苦手
- ・市民の「知る権利」って何？
- ・思っていることがなかなか言葉にできない

価格：525円（税込）

みんな堂担当：遊佐

Eメールを
お知らせ下さい

当センターでは、会員の皆さんへのサービスとして、Eメールによる情報提供を実施
しております。Eメールを送受信できる環境にある会員の方々に、まだメールアドレス
を事務局にお伝えいただけていない方は、ぜひご連絡下さい。 minmin@minmin.org

発行：特定非営利活動法人
せんだい・みやぎNPOセンター

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F

tel 022-264-1281 fax 022-264-1209

E-mail minmin@minmin.org

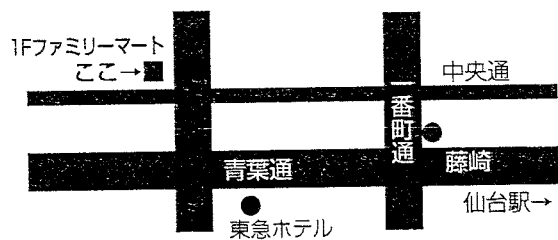
http://www.minmin.org/

会費・寄付はこちらにどうぞ！

郵便振替：02260-3-16325

加入者：せんだい・みやぎNPOセンター

■岡元ビル4F 仙台駅から徒歩15～20分



編集スタッフ：遠藤智栄、真壁さおり、門間裕美

みんな編集後記

■事務局近くのコンビニでは薪が販売され、河原では芋煮会の煙が・・・。私
は地域でのレクリエーション大会の打ち上げとして芋煮を食べた。負けても

おいしい芋煮鍋。今年は何度食べることになるかな？（遠藤ち）

■生活の中の「仕事率」が高くなってくると、山の風景を見たくくなります。家の周りが山なので自然に目
に入りますが、田んぼとその背景の山なみを眺めて、「ああ、今日も自然は変わらないなあ。」と安心し
ます。（真壁） ■「今年は素敵なサンダルを買いたいな」なんて思っていたら、もうすでにブーツ

を売っている季節になってしまいました。日々に追われてしまいますが、先日とてもきれいな夕日を見ま
した。季節に取り残されないようにしたいものです。（門間）